



立川総合病院消化器センター  
外科 主任医長  
日本大腸肛門病学会指導医

蛭川 浩史

### 大腸がんについて

現在、日本人の死因トップは「がん」、なかでも、大腸がんは年々増えています。大腸がんはできる部位により結腸がん、直腸がんに分けられます(図1)。

国立がんセンターの統計では、2014年の大腸がん罹患数(りかんすう…新しく大腸がんと診断された方の数)は、男性2位、女性2位、男女合計1位です。また2016年の大腸がんの死亡者数は、男性3位、女性1位、男女合計2位と、とくに女性の大腸がんが増えています。

日本人は胃がんが多いと言われてきましたが、大腸がんは罹患数、死亡数とも胃がんを抜きました。胃がんは早期にピロリ菌を除菌することで予防できる癌になつてきました。これに対し大腸がんは有効な予防法はありません。大腸がんを治すには、早期発見、早期治療につきます。

早期の大腸がんはほとんど症状がありません。病気が進行した状態になって初めて症状が現れます。代表的な症状としては、便秘下痢、血便、腹部のしこり、貧血などです。

症状のないうちに早期発見するには、積極的に検診を受けることが大事です。大腸がんの早期発見

のために、もっとも普及しているのは、便潜血検査です。便を専用の棒でこすつて採取し、血液が混じっているかどうかを調べます。現在はヒトの血液成分にのみ反応する特殊な方法を用いているので、鋭敏で感度のよい検査になっていきます。目に見えないわずかな出血も発見することができま。検査前日に、血の滴るレアな焼き肉を食べても、人の血液でなければ反応しません。

便潜血検査で陽性となる方は約6%、そのうち内視鏡検査で大腸がんが見つかる方は約4%で

す。便潜血検査が陽性でも、がんとは限りません。痔などで陽性になる場合や、異常がない場合もあります。思い込みは危険です。

便潜血検査陽性となった方のうち、約半数の方しか内視鏡検査を受けないと言われていま。便潜血検査が陽性となった人から内視鏡検査で見つかる大腸がんは、その多くが早期がん。治療率も高いとされています。

便潜血検査が陽性の場合、怖がらずに内視鏡検査を受けましょう。

### 大きく2種類に分けられる大腸がん

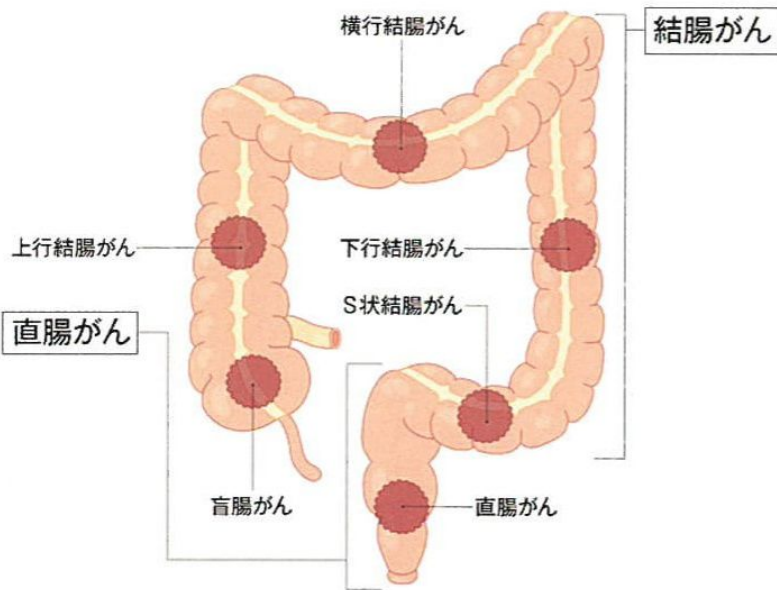


図1